

令和5年度 多摩市立青陵中学校 学校評価書

学校教育目標	
人権尊重の精神に基づき、持続可能な社会の作り手としての生きる力を育成することを目指す。 ◎自ら学ぶ力 ○共に生きる心 ○心身の健康	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
1 先見性と一貫性があり、生徒・保護者・地域から信頼される学校 2 安全で、豊かな人間性や社会性を育み、関わりやつながりを大切にしている学校 3 生徒の自己実現に向け、一人一人に光を当て、粘り強く指導する学校	
目指す子供像	目指す教師像
・これからの社会を、楽しく、自分らしく生活していける生徒	・豊かな人間性と思いやりのある教師 ・安全・安心に気を配り生徒理解を指導に生かせる教師 ・組織人として積極的に協働し相互に高め合う教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	持続可能な社会を担う生徒の育成と個別最適な学びの推進			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
ESD の推進を図るため、ESD カレンダーをもとに各学年の重点目標の達成率を70パーセント以上にする。	3	63.2%の生徒が肯定的な回答をしている。各学年の目標を明確にし、意識して活動を行わせる。	B	重点目標を生徒にきちんと認識させる。
やればできるという自信をもつ生徒を75パーセント以上にする。	4	72.4%の生徒が肯定的な回答をしている。多様な機会を与え、自己肯定感を高めさせる。	A	生徒に様々な機会を与え、自信を持たせる。
理解できない学習内容を克服しようとする生徒を70パーセント以上にする。	4	72.5%の生徒が肯定的な回答をしている。今後も生徒の理解度を向上させる支援を行う。	A	教員が生徒の状況を適切に見取るとともに、いつでも質問をしやすい環境を作る。
評価のまとめ	生徒たちは、理解できない学習内容を克服したいという意欲を持っている。さらに分からないものが理解できた時の満足感は充分にあるということが分かった。そのため、各教科の指導方法については今後とも工夫する。また、授業以外でも、自らが達成感をもって取り組める活動を増やす。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	いじりやいじめの防止と外部とのつながりのない不登校生徒の減少			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
いじめをせず、他者を尊重する気持ちを持つ生徒を95パーセント以上にする。	4	95.0%生徒が肯定的な回答をしている。いじめの根絶に向けて100%になるように指導を行う。	A	いじめを根絶するために講師を招聘して講話を聴かせることも方途の一つである。
学校には信頼できる教員や相談できる大人がいると認識する生徒を80パーセント以上にする。	4	82.2%の生徒が肯定的な回答をしている。生徒を見守り安心できる学校づくりに邁進する。	A	学校は安心して過ごせ、学ぶことができる場所であるように信頼関係の構築を一層充実させる。
自分の考えや想いを他者にうまく伝えることができる生徒を70パーセント以上にする。	3	64.9%の生徒が肯定的な回答をしている。授業を軸に表現活動を増やし方法を学ばせる。	B	ICTに頼りすぎ、コミュニケーションの仕方がうまくできないことも考えられる。
評価のまとめ	他との関わりの中で相手の気持ちを思いやりながら、自分の考えを適切に相手に伝えることができるようにコミュニケーション力を各教科の授業を中心として身に付けさせる。また、いじりやいじめは絶対に許されないという姿勢を教員が生徒に示し、些細なことも見逃さないように生徒の様子をよく見守る。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	基本的な生活習慣の定着と健康教育の充実			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
自らあいさつができる生徒を90パーセント以上にする。	4	82.3%の生徒が肯定的な回答をしている。あいさつは基本であり、登校指導時等から教員が手本を示す。	A	学校訪問時にも生徒はよくあいさつをしていると考える。生徒が自ら健康的な生活ができるように意識しているので、今後も継続して指導する。
健康な生活が送れるように自ら判断して行動している生徒を80パーセント以上にする。	4	81.5%の生徒が肯定的な回答をしている。体だけではなく心の健康も意識をさせて行動させる。	A	学校は安全な場所であり、危険が及ぶことのないように生徒が意識しているので今後も継続して指導する。
安全な生活が送れるように自ら判断して行動する生徒を90パーセント以上にする。	4	94.3%の生徒が肯定的な回答をしている。学校は安全な場所であればならないことを意識させ100%になるよう指導する。	A	学校は安全な場所であり、危険が及ぶことのないように生徒が意識しているので今後も継続して指導する。
評価のまとめ	あいさつについて、生徒たちは校内では来校者にもあいさつをすることができるが、校外に出ると、知り合いにもあいさつをすることが難しい面がある。来年度講師を招聘して、あいさつをすることの大切さについての講話を依頼し、いかなる場所でもきちんとあいさつができる生徒の育成を目指す。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	コミュニティスクールとしての、地域や家庭との協働体制の充実			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
地域学校協働本部との連携事業である部活動運営委員会において部活動の地域移行を推進する土台作りを行う。	1	年度始めに保護者や生徒たちに地域移行について説明をしたが、地域移行を求めるものがほとんどなかった。東京都立永山高等学校にダンス部の地域移行に向けて計画中である。	B	部活動の地域移行についてはその趣旨を踏まえ、少しずつ実施できることが望まれる。
地域から招かれる部活動等の発表には積極的に参加し、生徒を地域とともに育てる。	3	コロナ禍が明け、地域行事が復活してきている。その中で和太鼓部や吹奏楽部が地域から参加を求められ、生徒たちに成就感をさせることができた。	A	地域から多くの依頼を受けそれに応えることはコミュニティスクールの使命であり、今後もその充実を図る。
引き取り訓練等、保護者との協力体制が必要な防災や安全に対する取組について参加率を70パーセント以上にする。	1	引き取り訓練において保護者の参加率は47.3%であった。有事の際にはこの割合であることを想定して、教員の体制を再考する。	D	保護者も仕事をしている家庭が多いことから、引き取り訓練への協力は難しい。他の機会を模索していく。
評価のまとめ	地域との連携については、和太鼓部や吹奏楽部だけではなく、本校の活動を地域に見ていただく機会を多く設ける。保護者との連携に関しては、様々な教育活動を通じて、まずは、生徒の様子を見ていただくところから始めて連携につなげる。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

- 1 確かな学力の育成について、7割の生徒が「やればできる」という意識を持っていることから、来年度は指導過程においてスモールステップを大切に、生徒が自身でつまづいている箇所を認識し、課題を克服できるような指導を行う。また、視覚的に理解することも理解度を高めるためには非常に有効なため、ICT機器を全教科で利用させて基礎・基本の定着を図る。
- 2 豊かな心の育成について、95%の生徒がいじめをせず他者を尊重する心をもっているが、SNS等で他者を傷つけてしまっている場面がある。来年度は、「SNS 青陵ルール」を再確認させ、家庭との連携を図り自他共に大切に育てる生徒を育成する。
- 3 健やかな体の育成については、93%の生徒が安全について配慮をしている。しかし、全ての基本となるあいさつができる生徒は82.2%となっているため、生徒会活動等を通じて促す。
- 4 家庭や地域との連携については、地域で活動する場面が増えているので、地域に貢献できるように促す。家庭との連携については、少しでも多くの家庭と協働できるように考える。

以上のとおり報告いたします。

令和6年3月11日

多摩市立青陵中学校 校長 岩崎 紀美子

公印

令和5年度 学校評価書



多摩市立青陵中学校